小さい魔女

フロイスラ

オトフリート=プロイスラー 作
大塚勇三 訳
学習研究社

小さい魔女は、まだたったの127さい。あらゆる魔女たちが集まっておどる、ワルプルギスの夜によんでもらえません。どうしても仲間に入りたい小さい魔女。こっそりまぎれこみますが、いじわるなルンプンペルおばさんに見つかってしまいました。魔女のおかしらのところにつれていかれ、ばつとしてほうきを取りあげられてしまいます。でも、来年よい魔女になっていれば、いっしょにおどれることになりました。そのときから、小さい魔女の努力がはじまったのです。

小さなスプーンおばさん

フリヨイセ

アルフ=プリョイセン 作
大塚勇三 訳
学習研究社

スプーンおばさんは、気のいいおばさん。ときどきスプーンほどの大きさになってしまいます。それも、なにか用事をしかけたときにです。それでもスプーンおばさんは、少しもあわてません。こんなんを手ぎわよくかいけつしていくのです。スプーンおばさんとごていしゅの、ユーモアあふれるものがたりです。ほかに『スプーンおばさんのぼうけん』『スプーンおばさんのゆかいな旅』があります。

チョコレート工場の秘密

タル

ロアルド・ダール 著
クェンティン・ブレイク 絵
柳瀬尚紀 訳
評論社

ウィリー・ワンカの工場で作られるお菓子はとってもおいしくて、不思議なものばかり。とくにチョコレートは、世界中の子どもたちに愛されています。ある日ワンカさんは、5人の子どもをこの工場へ招待することにしました。貧しくてチョコレートをなかなか買ってもらえないチャーリーでしたが、なんと黄金切符が当たって、工場へ行くことになります。さあ、チョコレート工場では、どんな秘密がチャーリーたちをまっているのでしょうか。

年をとったワニの話
【ショヴォー氏とルノー君のお話集 1】

ショウオ

レオポルド・ショヴォー 作
出口裕弘 訳
福音館書店

ピラミッドが造られた時代から生きていたワニは、ある事情から故郷をはなれ、ナイル川を下ることになります。そして、足が12本あるというタコと出会いました。なかよくなったふたりは、ぐっすり眠りにつきました。しかし、目を覚ましたとき、よくない考えがワニの頭に浮かんできました。表題作の『年をとったワニの話』など、作者のショヴォーが息子ルノー君に語ったお話に、自ら絵をつけた4作品を収めています。

ともだちは海のにおい

クトウ

工藤直子 作
長新太 絵
理論社

星がいっぱいの静かな海。お茶の好きなイルカと、ビールの好きなクジラがいました。あるとき、イルカはクジラのつぶやきを聞きます。「さびしいくらいしずかだと、コトクがすきなぼくでも、だれかとビールを飲みたくなる」イルカは思いました。（ビールを飲みたくなるところだけが、ちがうけど、あとはみんな、ぼくと同じだ）そして、イルカとクジラの友情の日々が始まりました。

ドリトル先生アフリカゆき
【ドリトル先生物語全集 1】

ロフテイン

ロフティング 作
井伏鱒二 訳
岩波書店

動物と話ができる医学博士、ジョン・ドリトル。そんなドリトル先生のところには、たくさんの動物たちが集まります。ある日、サルのチーチーのもとに手紙がとどきました。アフリカでおそろしい病気がはやって、サルの仲間たちが次々とたおれているというのです。そこで、ドリトル先生はサルたちを救うため、オウムのポリネシアや犬のジップたちとともにアフリカへ向かいます。

ちょっとひとやすみ④

本屋さんで買ったり、学校や図書館で借りたりして、本の世界を楽しんでいる人も多いでしょう。そんななかで、お気に入りの一冊に出会ったら、友だちにしょうかいしたくなりませんか。「この本、ぜひ読んでみて。」とすすめるのも楽しいことです。きっと話がはずむことでしょう。そして、たまには家族にも教えてみませんか。友だちとはちがう、おもしろい感想が聞けるかもしれません。一冊の本が、今まで言えなかった心の中を話すきっかけになるかもしれませんよ。